

教科(科目)	農業（農業と環境）	単位数	4単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	「農業と環境」実教出版				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をとおして、望ましい 勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創作的に解決する力を養う。 (3) 農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
一学期	4	【栽培・環境のプロジェクト】 ○ダイズの栽培と利用 ①ダイズ(エダマメ)とは ②課題設定と栽培計画 ③栽培の実際	・エダマメの栽培、管理 ・エダマメ栽培を通して特性や調査記録し、必要な知識、管理技術の習得 ・生育調査	12	○	○	○	・エダマメの播種 ・エダマメの定植
	5	【栽培と飼育の基礎】 ○作物の特性と栽培のしくみ ①生活の中の作物 ②作物の自然分類 ③たねと発芽・たねまき	・生育調査	16	○	○	○	
	6	④成長のしくみと管理 ダイズ(エダマメ)の生育と管理 ⑤作物の繁殖と育種 ⑥作付体系と作型	・エダマメ栽培を通して特性や調査記録 ・必要な知識、管理技術の習得 生育調査	16	○	○	○	
	1 学期 期末 考 査							
	7	○ダイズの栽培と利用 ④ダイズ(エダマメ)の利用 収穫・加工等	・エダマメ栽培レポート	12	○	○	○	・エダマメの収量調査、 収穫・販売

二 学 期	9	○ダイコンの栽培と利用 ①ダイコンとは ②課題設定と栽培計画 ③栽培の実践	・ダイコンの栽培について ・生育調査	12	○	○	○	
	10	○ダイコンの利用 【栽培と飼育と環境のプロジェクト】 ・水辺の調査の方法と利用 【栽培と飼育の基礎】 ○作物をとりまく環境とその管理 ①作物栽培と環境 ②作物の生育と大気的环境	・ダイコンの葉の成長と根部の肥大の様子を観察し、加工の方法までの学習 ・基本的な環境調査を通して、植物の栽培環境の理解 ・にごり ・pH測定 ・DOなど	16	○	○	○	・ダイコンの収穫・販売 ・EC・pHメーターによる水質調査など
	11	③作物の生育を支える土 ④作物の養分と肥料 ⑤作物をとりまく生物 【農業と環境を学ぶ】 ○農業と環境の学び方 ①農業学習の特徴 ②プロジェクト学習とその流れ ③報告書の作成と発表 ④農業学習におけるプロジェクト学習	・肥料の成分量・施用量の求め方 ・プロジェクト学習や農業クラブ組織についての理解	16	○	○	○	
	12	2 学 期 期 末 考 査		12	○	○	○	
三 学 期		○学校農業クラブ活動 ①学校農業クラブ活動の目標	・学校農業クラブ活動の組織や活動方法についての理解					
	1		・学校農業クラブ活動の組織や活動方法について理解する。	12	○	○	○	
	2	②栽培と飼育に関するプロジェクトの実際 ③環境に関するプロジェクトの実際	・日本の農業の現状や課題について調べ、それに対する自身の考えをまとめて発表する。	12	○	○	○	
		3 学 期 期 末 考 査						
	3	1年間のまとめ	調査データの整理・分析	4	○	○	○	

計 140 時間 (50 分授業)

4 評価の観点の趣旨

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	農業と環境について基礎的な知識や技術を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決している。	農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・栽培管理 ・文章による説明 ・式やグラフでの表現 ・観察・実験 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・論述やレポートの作成 ・発表、グループでの話し合い、 ・作品の制作や表現 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ノートやレポート等における記述 ・授業中の発言 ・自己評価や相互評価等の状況 などから、評価します。

5 担当者からの一言

本科目では、作物の栽培管理を通して、生徒が主体的・継続的に生育状況を観察し、問題を発見したり、自ら調べたりして管理作業を工夫しようとする態度など、粘り強く栽培技術を学ぼうとする姿勢が大切である。

令和8年度シラバス（農業）

学番26 新潟県立新発田農業高等学校

教科(科目)	農業（農業と情報）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	農業702 「農業と情報」 実教出版				
副教材等	アプリケーションソフトウェアの活用技術習得のための副教材「30時間でマスター Office2024」実教出版				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、農業に関する課題を発見・調査・分析し、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な情報処理技術（情報セキュリティ対策や情報モラルへの配慮といった、情報化社会の影の部分への対策）を身につけるようにする。 (2) ICTを活用してやりたいことが円滑に行え、情報化社会の光の部分を楽しむことができるようにする。 (3) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (4) 地域の農業の諸課題（農業従事者の高齢化・労働力不足、耕作放棄地の増加や食料自給率の低下など）を理解し、情報通信技術(ICT)を活用して、省力化・精密化や高品質生産の実現を試みようとする態度を養う。

3 学習計画

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
1		オリエンテーション	コンピュータ教室と端末の使用ルールを確認する。	4	○		○	端末の起動、終了方法の点検
		第1章 私たちの生活と農業の情報化	・情報化社会の光と影について考え、SNSの使い方や、個人情報の取り扱い、知的財産権の保護、情報モラルについて理解する。	21	○	○	○	実習の様子 (行動の確認) レポート・演習プリント(記述の確認)
	4	1 情報社会における私たちの生活						
	5	2 情報とメディア						
	6	3 情報社会とモラル						
	7	情報端末の基本操作 1 情報表現とソフトウェア	アプリケーションソフトウェアの演習を通して、実際の情報処理の過程を理解する。 ・自分で活用できるように基本的な技術を身に付ける。・アプリケーションソフトの基本操作を理解する		○		○	端末の操作の点検 実習の様子(行動の確認) 演習ファイル等の提出
		②文書の作成と表現						
		定期(期末) 考査		1	○	○		

2	9 10 11 12	第2章 社会を支えるコンピュータ 1 コンピュータのしくみ 2 データや情報の表現 3 情報通信ネットワーク 4 インターネットのしくみ 5 情報セキュリティ	コンピュータのしくみ、コンピュータで扱う情報の種類と表現、情報通信ネットワークとインターネットのしくみ、情報のセキュリティ管理、などを理解する。	29	○	○	○	レポート・演習プリント(記述の確認)
		第4章 スマート農業への展望 1 スマート農業のめざす将来 4 計測と制御 5 リモートセンシングとGIS	最先端の農場であるスマート農業のしくみを理解し、簡単なシステムの設計・プログラミングを通して情報システムについて学ぶ。		○	○	○	レポート・演習プリント(記述の確認)
		情報端末の基本操作 2 情報表現とソフトウェア ③データの集計と視覚化	アプリケーションソフトウェアの演習を通して、実際の情報処理の過程を理解する。 ・自分で活用できるように基本的な技術を身に付ける。		○		○	端末の操作の点検 実習の様子(行動の確認) 演習ファイル等の提出
		情報端末の基本操作 3 情報表現とソフトウェア ④プレゼンテーション	アプリケーションソフトウェアの演習を通して、実際の情報処理の過程を理解する。 ・自分で活用できるように基本的な技術を身に付ける。		○		○	端末の操作の点検 実習の様子(行動の確認) 演習ファイル等の提出
		定期考査		1	○	○		
3	1 2 3	第5章 農業情報の分析と活用 1 農業情報の収集と分析 2 農業生産、環境、食品に関する情報分析と活用	農業の各分野における情報の種類や特徴を学び、情報の収集方法や分析・活用方法の基礎について学習する。	13	○	○	○	端末の操作の点検 実習と発表の様子(行動の確認) レポート・演習プリント(記述の確認)
		情報端末の基本操作_④ 情報表現とソフトウェア ⑤情報発信(プレゼンテーション)	設定課題について、自分の伝えたい意見や情報を研究し、アプリケーションソフトウェアを総合的に使用して、効果的な発表をおこなう。		○	○	○	端末の操作の点検 実習と発表の様子(行動の確認) レポート・演習プリント(記述の確認) 演習ファイル等の提出
		定期(学年末) 考査		1	○	○		

計 70 時間 (50 分授業)

4 評価の観点の趣旨

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	- 情報社会のしくみや農業分野の情報化、農業の発展に関する知識を理解し、適切に情報を収集して活用している。 - 情報社会の個人の責任とセキュリティ管理に関する知識を理解しようとしている。	農業学習に関する課題の解決をめざし、て思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに科学的に判断することができる。	情報社会のしくみや農業各分野の情報化に関心をもち、農業の情報化や農業の発展に関する課題や活用について探求しようとしている。

評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、実技テストの分析 ・演習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、実技テストの分析 ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・演習プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・実技テストの分析 ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・演習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。
------	---	---	---

5 課題・提出物等

- ・ 演習プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・ アプリケーションソフトを活用した課題や作品の提出物があります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

6 担当者からの一言

農業と情報の授業では、さまざまなソフトウェアについて課題を通して実践的に学び、2、3年生での課題研究やプロジェクト学習に必要な技術を身につけます。情報は現代社会では自らの生活と切り離せないものであり、モラルやリテラシーを身につけることも重要であることを理解してください。

教科(科目)	総合実習	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書					
副教材等	「農業と環境」(実教出版) 各専攻配付プリント、				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 総合実習について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 総合実習に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 総合実習について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
--

3 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
一学期	4	○体験学習オリエンテーション	・総合実習(体験学習)の授業展開、評価、実習の心得などについて理解する。 ・農業科ローテーション 第1展開：2時間	2	○	○	○	体験学習 (週2時間) 週2時間下記8専攻を体験的に学習する。
	5	○ローテーション体験学習 4月～12月の間に8専攻を各自が2回ずつ体験する。	8専攻の学習内容、実験・実習を理解して、学科選択の参考とする。	16	○	○	○	・作物、野菜 動物、地域 草花、フラワー 食品、栄養 ※4クラス 同時展開 1 コース 16名
	6							
	7	○ 農業講演会	1 学 期 期 末 考 査	4	○	○		
二学期	9	○ローテーション体験学習 4月～12月の間に8専攻を各自が2回ずつ体験する。	・農業科ローテーション 第2展開：2時間 8専攻の学習内容、実験・実習を理解して、学科選択の参考とする。	16	○	○	○	・作物、野菜 動物、地域 草花、フラワ ー
	10							

学 期	11						食品、栄養 ※4 クラス同時展開 1 コース16名
		○農業講演会・農業研修	経営者としての視点、ライフスタイル、課題解決の方法等について学習をおこなう。	12	○	○	※考查は8専攻の体験学習と調査研究学習の内容から出題させる。
2 学 期 期 末 考 査							
三 学 期	12	専攻別体験 専攻ごとに分かれて、専攻の学習を行う。	・専攻の学習内容、実験・実習を通じて各専攻の学習内容に理解を深め、2年次以降の学習の参考とする。	18	○	○	※ 考查は専攻の体験学習の内容から出題させる。
	1						
	2						
	3	○年間のまとめ		2	○	○	
3 学 期 期 末 考 査							

計 70 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	各専攻別体験学習について基礎的な知識や技術を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけようとしている。	各専攻別体験学習に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決しようとしている。	各専攻別体験学習について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・栽培管理 ・文章による説明 ・式やグラフでの表現 ・観察・実験 ・農業クラブ関連競技の成績 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・論述やレポートの作成 ・発表、グループでの話し合い、 ・作品の制作や表現 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ノートやレポート等における記述 ・授業中の発言 ・自己評価や相互評価等の状況 ・農業クラブ関連競技の成績 などから、評価します。

5 課題・提出物等

- ・ プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・ 長期休業中の栽培管理実習・調査等があります。

6 担当者からの一言

本科目では、各専攻体験学習を通して、生徒が主体的・継続的に生育状況を観察し、問題を発見したり、自ら調べたりして管理作業を工夫しようとする態度など、粘り強く栽培技術や実験・実習、加工・製造等を学ぼうとする姿勢が大切である。

教科(科目)	農業（課題研究）	単位数	2 単位	学年(コース)	2 学年
使用教科書	なし				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい 勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。
- (2) 農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- (3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1 学期		本年度計画の確認 研究を進める。	自らの興味・関心のある、過去の研究テーマを参考としながら、自らテーマ設定後に年間計画を作成する。	20	○		○	・個人ファイルを持たせ、毎週提出 ・計画表の提出 ・1 学期報告書作成 (6 月下旬～7 月上旬)
		進捗状況を確認し計画を微調整する。	計画表を元に研究を進める。		○	○		
	4	1 学期報告書作成および自己評価表作成	進捗状況を確認し、必要に応じて計画を修正する。			○	○	
	5		飼育、栽培の管理		○	○		
	6		発育や生育に関する調査			○	○	
			研究データの整理。 1 学期報告書と自己評価表の作成をととして、今までの反省をふまえた上での今後の計画を考える。		○	○	○	

2 学 期	7	研究を進める。	飼育、栽培の管理継続	30	○	○	・個人ファイルを持 たせ、毎週提出 ・2学期報告書作成 (11月中旬～12月 上旬)
	8		発育や生育に関する調査・研究を 継続			○	
	9					○	
	10					○	
	11	2学期報告書作成および自 己評価表作成	研究データの整理。 2学期報告書と自己評価表の作 成をととして、今までの反省をふ まえた上での今後の計画を考え る。		○	○	
3 学 期	11	研究を進める。	生育、飼育データを解析し、研究 をまとめる。	20		○	2年次報告書作成と 研究中間発表会準備 (1月下旬～2月下 旬) 2学期報告書作成 (11月中旬～12月 上旬) パワーポイントの作 成
	12					○	
	1		パワーポイントによるプレゼン テーションの作成		○	○	
	2	研究中間発表会の準備	発表原稿の作成		○	○	
	3	2年次報告書の作成 自己評価表の作成 研究中間発表会 来年度の計画の作成	2年次報告書と自己評価表の作 成を通して、1年間を振り返り課 題研究の意義と成果を確認する。 研究中間発表会の準備を行う。 1年間の成果と課題を踏まえて、 来年度の計画を立てる。		○	○	

計 70 時間 (50 分授業)

4 評価の観点の趣旨

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の 観点	農業の各分野に必要な問題解決能力や自己教育力などの育成をするため、プレゼンテーションの基礎的な知識・技術を身につけ、データをまとめることができる。 農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、農業の意義や役割を理解している。 実験・実習の方法が身につけている。	農業に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、農業に携わるものとして適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。 実験・実習に向けての学習に対して、考察が的確であり、それに伴い計画の立案、変更ができる。実験・実習、学習記録簿や報告書作成が的確にすることができる。	農業に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとすると共に、実践的な態度を身につけている。 課題の設定や計画の立案などに意欲的で研究活動・資格取得活動に熱心に取り組んでいる。
評価 方法	以上の観点を踏まえ、 - 日々の活動ごとの報告用紙 - 研究データの収集および解析 - 学期報告書、自己評価表 - 飼育、栽培への取り組み などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 - 研究計画表の作成 - プレゼンテーションの作成および発表の様子 - 自己評価用紙の作成 - 研究データの収集および解析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 - 研究計画表の作成 - プレゼンテーションの作成 - 自己評価用紙の作成 - 日々の研究への取り組み などから、評価します。

5 課題・提出物等

- ・ 研究計画表
- ・ 学期ごとの自己評価シート
- ・ データをまとめた研究記録用紙
- ・ 研究記録をまとめた用紙およびパワーポイント

6 担当者からの一言

毎時間の実験・実習報告書を提出してもらい、1学期末・2学期末に「1学期中間報告書」、「2学期中間報告書」、学年末には「2年次報告書」を作成、提出してもらいます。また、成績に加味するよう年度末に学科または専攻単位で中間発表会を実施します。

令和8年度シラバス（ 農業 ）

学番26 新潟県立新発田農業高等学校

教科(科目)	農業（課題研究）	単位数	2単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	なし				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をとおして、望ましい 勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。
- ② 農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- ③ 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1 学期	4 5 6	本年度計画の確認 研究を進める。	自らの興味・関心のある、過去の研究テーマを参考としながら、自らテーマ設定後に年間計画を作成する。	20	○		○	・個人ファイルを持たせ、毎週提出 ・計画表の提出 ・1学期報告書作成 (6月下旬～7月上旬)
		進捗状況を確認し計画を微調整する。	計画表を元に研究を進める。		○	○		
		1学期報告書作成および自己評価表作成	進捗状況を確認し、必要に応じて計画を修正する。			○	○	
			飼育、栽培の管理		○	○		
			発育や生育に関する調査			○	○	
			研究データの整理。 1学期報告書と自己評価表の作成をとおして、今までの反省をふま		○	○		

			えた上での今後の計画を考える。					
2 学 期	7 8 9 10 11	研究を進める。 2学期報告書作成および自己評価表作成	飼育、栽培の管理継続 発育や生育に関する調査・研究を継続 研究データの整理。 2学期報告書と自己評価表の作成をとおして、今までの反省をふまえた上での計画の見直しを図る。	30	○	○	○	・個人ファイルを持たせ、毎週提出 ・2学期報告書作成 (11月中旬～12月上旬)
3 学 期	11 12 1 2 3	研究を進める。 研究中間発表会の準備 2年次報告書の作成 自己評価表の作成 研究中間発表会 来年度の計画の作成	生育、飼育データを解析し、研究をまとめる。 パワーポイントによるプレゼンテーションの作成 発表原稿の作成 2年次報告書と自己評価表の作成を通して、1年間を振り返り課題研究の意義と成果を確認する。 研究中間発表会の準備を行う。 1年間の成果と課題を踏まえて、来年度の計画を立てる。	20		○	○	2年次報告書作成と研究中間発表会準備 (1月下旬～2月下旬) 2学期報告書作成 (11月中旬～12月上旬) パワーポイントの作成

計 70時間 (50分授業)

4 評価の観点の趣旨

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	農業の各分野に必要な問題解決能力や自己教育力などの育成をするため、プレゼンテーションの基礎的な知識・技術を身につけ、データをまとめることができる。 農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、農業の意義や役割を理解している。 実験・実習の方法が身についている。	農業に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、農業に携わるものとして適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。 実験・実習に向けての学習に対して、考察が的確であり、それに伴い計画の立案、変更ができる。実験・実習、学習記録簿や報告書作成が的確にすることができる。	農業に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとすると共に、実践的な態度を身につけている。 課題の設定や計画の立案などに意欲的で研究活動・資格取得活動に熱心に取り組んでいる。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・日々の活動ごとの報告用紙 ・研究データの収集および解析 ・学期報告書、自己評価表 ・飼育、栽培への取り組み などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・研究計画表の作成 ・プレゼンテーションの作成および発表の様子 ・自己評価用紙の作成 ・研究データの収集および解析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・研究計画表の作成 ・プレゼンテーションの作成 ・自己評価用紙の作成 ・日々の研究への取り組み などから、評価します。

5 課題・提出物等

- ・ 研究計画表
- ・ 学期ごとの自己評価シート
- ・ データをまとめた研究記録用紙
- ・ 研究記録をまとめた用紙およびパワーポイント

6 担当者からの一言

毎時間の実験・実習報告書を提出してもらい、1学期末・2学期末に「1学期中間報告書」、「2学期中間報告書」、学年末には「2年次報告書」を作成、提出してもらいます。また、成績に加味するよう年度末に学科または専攻単位で中間発表会を実施します。

教科(科目)	農業（栽培と環境）	単位数	2単位	学年 (コース)	2学年 生物資源科・環境科学科
使用教科書	実教出版「栽培と環境」				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー（共通の追加項目）

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、栽培植物の育成環境の調整・管理に必要な資質・能力の育成を目指す。

(1) 栽培と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 栽培と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

(3) 栽培と環境について農業生物の栽培や管理に応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
1	4	1 栽培と環境(第1章) (1) 自然環境のなりたち (2) 栽培環境のなりたち	・環境、自然環境、栽培環境について学ぶ。 ・環境要素について学ぶ。 ・様々な環境要素について学ぶ。	25	○	○		レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	5	(3) 栽培環境と栽培技術 2 気象的要素(第3章) (1) 気象と気候	・環境に適した栽培方法、栽培環境の改良について学ぶ。 ・気象・天気・天候・気候の違いについて学ぶ		○	○	○	
	6	(2) 気象と作物の生育 3 土壌的要素(第4章) (1) 土壌の役割	・作付体系と作型、気象災害について学ぶ ・土壌の役割と生成について理解する。		○	○		
	7	(2) 土壌の機能	・土壌の保水性・保肥性について学ぶ。		○	○		
		定期考査(1学期期末)		1				
2	8	3 土壌的要素(続き) (3) 土壌中の窒素の動態と 土壌肥沃度	・有機態窒素と無機態窒素について学ぶ。 ・肥料の種類と施肥方法について学ぶ。	13	○	○		レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	9	(4) 肥料の種類と土壌の 管理	・土壌管理の必要性和作物に適した農地について学ぶ。		○	○		
	10							
		定期考査(2学期中間)		1				

	11	4 生物的要素(第5章) (1)農地の生物と害虫防除	・生物群集と有害生物・天敵について学ぶ。 ・昆虫と害虫の種類について学ぶ。 ・微生物(菌類、細菌、ファイトプラズマ、ウイルス他)の種類と植物病の防除法について学ぶ。 ・雑草の種類と被害、鳥獣害について学ぶ。 ・農薬の使用と使用義務について学ぶ。 ・総合的有害生物管理について学ぶ。	15	○	○		レポート・プリント (記述の確認)
	12	(2)作物病害とその防除			○	○		実習の様子 (行動の確認)
		(3)雑草害と鳥獣害			○	○	○	
		(4)農薬使用と総合的有害生物管理			○	○		
		定期考査(2学期期末)		1				
3	1	5 施設型農業の栽培環境(第6章)	・園芸施設の種類と構造について学ぶ。 ・園芸施設内の生物制御と複合的な環境管理について学ぶ。 ・環境に配慮した農業について学ぶ。	13	○	○		レポート・プリント (記述の確認)
	2	6 環境に配慮した栽培実践(第7章)			○	○	○	実習の様子 (行動の確認)
	3			1				

計 70時間 (50分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・栽培と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようと努力している。	栽培と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ適切に判断できるようにしている。	農業生物の栽培と管理に応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組めるよう努力している。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

5 課題・提出物等

- ・ プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・ 長期休業中の栽培管理実習・調査等があります。

6 担当者からの一言

「栽培と環境」では、私たちに身近な、気象的要素、土壌的要素、生物的要素を中心に学習します。1年生の「農業と環境」で学んだ内容を基本にし、2・3年生の各専攻の専門科目の学習内容を補ったり、深めたりします。

教科(科目)	農業（農業経営）	単位数	2単位	学年(コース)	3年（生物資源科・環境科学科）
使用教科書	実教出版『農業経営』				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい 勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 學習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業経営とマーケティングに必要な資質・能力の育成を目指す。

- (1) 農業経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 農業経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 農業経営のマネジメントやマーケティングが経営発展へつながらるように自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働性に取り組む態度を養う。

3 学習計画

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点			備考
					知	思	主	
1 学期		農業の動向と農業経営	○日本と世界の農業 ○農業経営の動向	10		○	○	レポート
	4	農業のマネジメント	○会計のマネジメント ・会計と簿記 ・資産・負債・純資産と貸借 対照表	10	○		○	プリント
	5							
	6							
	7	JA 意見文	JA 意見文説明	1		○	○	提出は2 学期
	定期考査			1	○	○		
2 学期		農業のマネジメント	・収益・費用と損益計算書 ・取引と勘定 ・仕訳と転記	15	○		○	プリント
	8	農業の動向と農業経営	○食料消費の動向と社会経 済環境	14		○	○	レポート
	9							
	10							
	11	農業のマーケティング	○農業マーケティングの概要 ○農業のマーケティング戦			○	○	レポート
12								

			略 ○農産物のブランド化					
		定期考査		1	○	○		
3 学 期	1 2 3	農業のマネジメント	○会計のマネジメント ・仕訳と転記 ・試算表 ・決算	9	○		○	プリント
		農業のマーケティング	○農産物のブランド化	8		○	○	レポート
		定期考査		1	○	○		

計 70 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 の 観 点	・ 実社会に必要な農業経営の知識や技能を身につけるようにしている。	・ 農業経営の問題の中で、問題を意識してそれを深め、そして自分の思いや考えをアウトプットし、さらに広げたり深めたり、あるいは様々な視点から見たり考えたりすることができるようにしている。	・ 自ら進んで自分の思いや考えを広げたり深めようとしていたりしている。また、自ら進んで積極的に理解してアウトプットしようとしている。
評価 方 法	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ レポートなどの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ レポートなどの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の取組の観察 ・ レポートなどの内容の確認 などから、評価します。

5 課題・提出物等

- ・ JA 意見文の提出があります (原稿用紙 5 枚)

6 担当者からの一言

農業経営に必要な知識・技術を身につけ、さらに自ら学ぶ力や創造力をはぐくみ、視野を広くし、自ら考える力を伸ばし、それをアウトプットできる力を身につけます。また、自律して世界に羽ばたき、能力を発揮する基礎となる学びです。

教科(科目)	農業（作物）	単位数	2単位	学年(コース)	3 学年 ・生物資源科 動物専攻 ・環境科学科 ・食品科学科
使用教科書	実教出版「作物」				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をとおして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、作物の生産と経営に必要な資質・能力をつぎのとおり育成することを目指す。 (1) 作物の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創作的に解決する力を養う。 (3) 作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
1	4 5	栽培管理	・種籾の準備：塩水選、温湯消毒、 浸種、催芽	11	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		苗の生育	・育苗：プールの作成、整地 ・水田準備：基肥散布、耕起					
		定期考査(1学期中間)		1	○	○		
	6 7	イネの移植	・田植え作業の実践	13	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		本田の管理 生育調査	・移植後の水管理 ・中干し、溝切り					
		定期考査(1学期末)		1	○	○		
2	8	追肥、病害虫の防除		15	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	9 10	収穫と調製	・収量構成要素 単位面積あたりの植え付け株数 平均一株穂数 平均一穂もみ数		○	○	○	

		登熟歩合 玄米一粒重 ・収穫、調整：コンバイン操作、乾燥、調整、袋詰め					
		定期考査(2学期中間)	1	○	○		
	10 11 12	品質と高価値化 収量調査 品質調査	13	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(2学期末)	1	○	○		
3	1 2 3	栽培評価 稲作経営の特性 流通と経営	13	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(学年末)	1	○	○		

計 70時間 (50分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・作物の生育と環境の調節及び栽培計画、管理、評価など作物の栽培と経営に関する基本的、体系的な知識を身に付け、作物の栽培、経営の特性と栽培技術の仕組みを理解している。	・作物の特性と栽培環境などから生育状態を多面的に考察し、その生育状態に応じた栽培管理を適切に判断できるようにしている。	・作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、栽培実習を通じて主体的かつ協働的に取り組むようにしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 中間考査 期末・学年考査) ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 中間考査 期末・学年考査) ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

5 課題・提出物等

- ・ プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・ 長期休業中の栽培管理実習・調査等があります。

6 担当者からの一言

作物（稲作）は新発田地域（新発田市、阿賀野市、胎内市、聖籠町）の基幹的産業であり、最も基本的で大きな部分を占める分野です。イネの特性や栽培に適した環境を理解し、品質と生産性の向上を図るための知識と技術を身に付けます。

令和8年度シラバス（農業）

学番26 新潟県立新発田農業高等学校

教科(科目)	農業（造園計画）	単位数	2単位	学年(コース)	3学年 作物 野菜 動物 食品化学 栄養化学
使用教科書	造園計画（文部科学省）				
副教材等	配付プリント				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー（共通の追加項目）

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

- 造園計画について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- 造園計画に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- 造園計画について目的や環境に応じた造園空間の創造につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
1	4	環境と造園の様式	枯山水や回遊式庭園など日本の造園様式及びそれを取り巻く自然環境や文化的・社会的環境について学習する。	26	○	○	○	グループ分けを行い、チームで製作する。
	5	・古代の造園 ・中世の造園 ・近世の造園						
	6	竹廃材を活用した竹細工 ・工具について ・施工計画			○	○	○	
	7	定期考査（1学期期末）			○	○	○	
2	8	造園計画の意義と役割	人と自然が共生する環境を知り、それに基づいて造成・管理するための基礎を学習する。	34	○	○	○	
	9	・地球環境と造園			○	○	○	
	10	・生活環境と地球環境 ・造園計画と造園空間			○	○	○	
	11	定期考査（2学期中間）						
		・校庭樹木の管理	校庭樹木の剪定や生垣の刈込実習を行い、技術を身につ		○	○	○	ロープワーク実習 剪定・刈込実習

	12	・屋上・壁面緑化 ・室内緑化 ・里地里山、農村緑地 定期考査 (2 学期期末)	ける。 都市緑地や農村緑地等について学習し、公園・緑地の役割と機能について学習する。		○	○	○	
3	1 2 3	・外国の自然公園 ・外国の造園様式 学年末考査	諸外国の造園様式や自然公園について学習する。	10	○	○	○	

計 70 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	造園計画について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	造園計画に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決している。	造園計画について目的や環境に応じた造園空間の創造につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・演習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

5 関連する検定、課題・提出物等

- ・造園技能検定 造園施工管理技術検定 トレース技能検定 レタリング検定
- ・プリントやレポート、作品などの提出物があります。

6 担当者からのメッセージ

- ①実習の際、指定の実習服、長靴等の着用を徹底するとともに、時間を厳守すること。
- ②季節的または天候により、授業内容に変更を生ずることがある。
- ③天候不良時(小雨)でも実習をすることがある。(雨具を個人で用意する。)
- ④樹木、庭園を通しての造園の美学、物づくりの楽しさ、素晴らしさを体験し、さらに
は緑の保全、地球規模の環境問題にも興味関心を発展させていくことを希望する。
- ⑤造園に関する学習をするため、造園の施工、管理と緑化植物の育成、管理を並行して学習することがある。

教科(科目)	選択「草花」	単位数	2単位	学年(コース)	3学年 生物資源科 環境科学科 地域環境デザイン専攻 食品科学科
使用教科書	「草花」 実教出版				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい 勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 學習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、草花の生産と経営に必要な資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 草花の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学 期	月	授業計画	学習内容	時 間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
1	4	草花生産と消費の動向 1 草花園芸の特徴	①草花の生産と経営 ②草花の種類 ③草花の生産形態	12	○ ○	○ ○	○	・ほ場での観察と実習 ・播種および栄養繁殖実習（さし芽） ・花壇苗管理実習 ・シクラメン管理実習
	5							
		草花の特徴と栽培技術	①草花の一生	14	○	○	○	
	6	1草花の生育と環境	②根の生長と養水分の吸収 ③草花の繁殖方法					
	7	2品種改良と繁殖						
		期 末 考 査			○	○		
2	8		④種子繁殖 ⑤栄養繁殖	16	○	○	○	・ほ場での観察と実習 ・シクラメン管理実習 ・販売実習
	9							

	10	鉢もの生産 1 鉢もの生産の特色 2 鉢ものの生産資材と商品化 技術	①鉢もの生産の経営 ②栽培管理の特色 ③鉢の種類					
		中 間 考 査			○	○		
	11		②用土 ③水と肥料	14	○	○	○	・ほ場での観察と実習 ・鉢花管理実習 ・販売実習
	12	3花鉢もの	①鉢ものの種類と特性 ②シクラメン					
		期 末 考 査			○	○		
3	1	3花鉢もの(続き) 第4章草花の特徴と栽培技術	⑥プリムラ類	14	○	○	○	・ほ場での観察と実習
	2	4生産施設と栽培環境の調節	①施設の機能・構造とその利用					
		学 年 末 考 査			○	○		

計70時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	草花の特性を理解できる。様々な実習の目的や方法についてしっかり理解している。	草花の生育特性について正しく理解し、草花の機能や役割について思考を深めている。	草花を通じて積極的に他者と関わり、進んで実習に取り組んでいる
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実習での成果 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言 ・レポートの作成 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業での発言や取り組み態度 ・実習での取り組み態度 ・レポートの状況 などから、評価します。

4 課題・提出物等

- ・ノートの記事・提出
- ・レポート・課題の作成・提出

5 担当者からの一言

草花について全般的に学習あい、基本的な知識を持ち、実践できるまでを目標とします。基本的な知識を習得するため草花を教材とし、播種から栽培管理、販売や活用までを各種座学や実習を通じ一貫して学習します。

教科(科目)	農業(野菜) 選択	単位数	2単位	学年(コース)	3学年(選択)
使用教科書	「野菜」実教出版				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい 勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 野菜について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 野菜に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 野菜について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
--

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
一学期	4	第1章 野菜生産と役割 1 野菜の種類と特徴 2 野菜の消費	- 野菜の種類と利用を学ぶ。 - 野菜に分類について学ぶ。 - 消費動向の変化を学ぶ。 - 野菜の消費量を学ぶ。		○	○	○	レポート (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	5	3 野菜の生産と供給	- 消費の多様化を学ぶ。 - 野菜の生産と供給のしくみ - 野菜栽培と生産動向を学ぶ。 - 野菜の輸入と輸出を学ぶ。 - 野菜の流通を学ぶ。	24	○	○	○	
	6							
		1 学期 期末 考 査						
	7		・知的財産の保護を学ぶ。					
	9	4 野菜の安産性	- 安全、安心な野菜。 - 環境に優しい野菜栽培を学ぶ。 - 生活のなかの野菜栽培を学ぶ。		○	○	○	

二 学 期	10	第2章 1 野菜の生育と生理	・野菜の生育を学ぶ。 ・種子と発芽を学ぶ。 ・茎と葉の成長を学ぶ。					
		2 学 期 中 間 考 査						
	11	2 野菜の栽培環境と生育調節 葉や花茎を利用する野菜の栽培	・光合成のしくみと物質の生産。 ・根の発達と肥大を学ぶ。 ・葉菜類の花芽形成と抽苔。 ・果菜類の花芽分化と果実発育。 ・休眠について理解する。 ・温度環境とその調節を学ぶ。	36	○	○	○	レポート (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		2 学 期 期 末 考 査						
	12		・風、ガス環境とその調節を学ぶ。 ・地下茎の環境とその調節を学ぶ。		○	○	○	
三 学 期	1	3 人工環境における栽培技術	・合理的作付けと輪作を理解する。 ・露地栽培を理解する。 ・施設を利用した栽培 ・養液栽培を理解する。	10	○	○	○	
		3 学 期 期 末 考 査						

計 70 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の 観点	野菜について基礎的な知識や技術を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけようとしている。	野菜に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決しようとしている。	野菜について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけようとしている。
評価 方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・栽培管理 ・文章による説明 ・式やグラフでの表現 ・観察・実験 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・論述やレポートの作成 ・発表、グループでの話し合い、 ・作品の制作や表現 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ノートやレポート等における記述 ・授業中の発言 ・自己評価や相互評価等の状況 などから、評価します。

5 担当者からの一言

野菜の授業（実習）を通して、生徒が主体的・継続的に生育状況を観察し、問題を発見したり、自ら調べたりして管理作業を工夫しようとする態度など、粘り強く栽培技術や実験・実習、加工・製造等を学ぼうとする姿勢が大切である。